

---

# インドマクロ

樋川真

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】  
インドマグロ

【Nコード】  
N2213C

【作者名】  
樋川真

【あらすじ】  
晶とあいぼうの徹がインドマグロのように入手困難なオルゴールを探してゲットする物語

はじまりはネットオークションだった。

晶はPCの画面に映し出されたオルゴールに一目惚れし、欲しくてたまらなくなった。

それは麻薬を打たれた者のようで、晶は寝ても覚めてもそのオルゴールを手に入れることばかり考えていた。

晶はネットオークションで件のオルゴールを競り落とし、他人にそのオルゴールを何とか譲ってはもらえないだろうかと思案した。

晶の相棒、徹が長崎オルゴール館でそれとおぼしきオルゴールを見つけ、店の人の許可を得てそのオルゴールの動画を送ってきたがそれではなかった。

しかしそれも気に入った晶はそのオルゴールも買ってきてくれるように徹に頼んだ。

晶は欲しがっていたオルゴールを手に入れるまでは寝ても覚めても欲しいと言って聞かないので、徹はそれとおぼしきオルゴールを買って帰ったのだが、晶は満足していない様だった。

徹はそんな晶を見てため息をついて、あいだみつをの言葉を引用してあれもこれも欲しがるともんじゃないと言っはみたものの、晶が欲しいと言っているオルゴールをマグロにたとえるならさしずめインドマグロで、徹の買ってきたオルゴールはマグロならメバチマグロだったわけである。

晶は欲しいと思ったら手に入れずにはおかない性分で、

その物欲はとても強いものがあり、徹は自分にそれほど物欲がないのでよくはわからないのだが、インドマグロに限らずしつこくその物が手に入るまで晶の物欲にまかせたあれ欲しいこれ欲しいという言葉で徹は聞かされている。

困ったことに現在の所、世間は晶に甘いので、晶は欲しいと言った物のうちのかなりの割合の物をその手中にしている。

徹はそうやって集めに集めた晶の所望品を伴に鑑賞することがあり、よくもまあ集めたものだと思うことが多い。

徹が長崎で手に入れてきたオルゴールに行き当たるまでに長崎市内のオルゴールを売ってそうな店で店員に聞いてみた反応には共通したものがあつた。

オルゴール、それもバレリーナが音楽とともにくるくる回るものと言うと、現在はもう生産されていない、うちの店にはない。と言われ続けてグラバー園近くの長崎オルゴール館でようやくオルゴール・バレリーナ付きを1個見つけて動画を晶に送ったわけだがそれも結果的には外れだったわけである。

徹は以来、オルゴールと聞くと顔が険しくなるようになってしまった。

晶の所望するオルゴールはマグロならインドマグロと言ったが、インドマグロは日本近海にはいない。インド洋にいる。インドマグロを釣りたければインド洋まで行かねばならない。これに対しメバチマグロは日本近海にいる。

長崎ぐらいならメバチマグロのようなオルゴールしか手に入らない。

晶の所望品であるインドマグロなオルゴールは海外に行けば当たり前のようにゴロゴロ転がっているだろうと徹は

考えていた。

アジアで1つ心当たりは、中国の杭州にあるという10  
キロ平方の間屋センターである。

単純計算で10万店はあろうかという杭州の間屋センタ  
ーに探しに行くのには先立つものも、探し歩く時間もも  
に必要であろうというわけで、あまりリアリティがない。

それでも杭州の間屋センターにはメバチマグロしか泳い  
でいないかもしれない。

晶はネットにインドマグロなオルゴールを探している旨  
告知を出し、情報提供を待った。

まあ撒き餌は撒いたわけだ。

あとはインドマグロが食いつくかどうかというわけだ。  
いつになることやら。

そもそも徹は長崎市内の85軒の店を訪ねてメバチマグ  
ロを釣ってきた。

メバチマグロですらそうだから、インドマグロは影も形  
もない。

オルゴール館近くでロシア海軍の水兵たちと遭遇した徹  
はよほどそのインドマグロなオルゴールの画像を見せて在  
処を尋ねようかと思ったが、ロシア語ができないので断念  
した。

時は帆船祭りで長崎市内を走る路面電車は満員で、徹の  
モチベーションは上がらなかった。

晶はオルゴールオルゴールと欲望のおもむくままに5分  
おきにメールを打ってきていた。

シカトするわけにもいかないので徹は佐世保バーガーを  
口にしながらため息をついて返事を打っていた。

長崎にはチャイナタウンがある。オルゴールを扱ってい  
そうな店に入り、徹はバレリーナ付きオルゴールはないも

のだろうかと尋ねると長崎オルゴール館になれば長崎にはないねえという返事が返ってきた。

そういうわけで徹は路面電車で大浦天主堂下まで行くことになる。

大間漁港に上がる本マグロ1本で1年は暮らせるというが、インドマグロもそれなりに高い。

メバチマグロはというと那智勝浦で上がる近海物を使った解体シヨウで即売されるメバチで3貫500円として1本200万円ちかい。

オルゴールをマグロにたとえるのは少々乱暴な気はするが、徹は長崎でインドマグロを釣ってくることはできなかった。

同様の趣が神戸と横浜でも展開されそうなのだが、インドマグロを釣るためなら出かけてかないといけないのだろうかと徹は天を仰いだ。

神戸にもチャイナタウンはある。その周辺を訪ねていかねばならないのだろうか、徹はそう思って眉間にしわを寄せて石橋行きの路面電車に乗り込んだ。

神戸元町のJR高架下には商店街がある。

いつ仕入れたのかわからない品物やそもそも売り物かどうかもわからない品物が転がっている商店があったりして昭和の頃の佇まいを残している。

晶と徹はその商店街にインドマグロを探しに来た。

目指すインドマグロが泳いでいそうな雰囲気かぶんぶん漂う商店街でネットにアップした画像をプリントアウトした紙切れを晶は携え、このオルゴールはないだろうかと片っ端からきいてまわった。

1軒、そういえばあるかもしれんなあ、店のどこかに埋もれているかもなあ、という店があり、探して貰ったが、

そうそうあれは外人さんが買っていったわ、すまんのう。  
という返事が返ってきた。

口惜しさも入り混じって晶は大阪へと帰る阪神電車の中でその店主の悪態をついていた。

インドマグロなオルゴールだけに近海ではなかなか上がらない。

収穫なしを覚悟の上の長期戦へと突入する様相を見せてきた。

徹は、これは杭州まで釣りに行かねばならないのかと漠然と思っていた。メバチなオルゴールなら釣ってきたのがなあ、でも、晶の所望はインドマグロなオルゴールなんだよなあ、と息をついた。

晶は裏技を使った。

ネットオークションでインドマグロなオルゴールを落札して手に入れた人からインドマグロなオルゴールを譲り受けるという、ある意味漁船買いのようなマネをしてインドマグロを手に入れた。

自ら釣れないなら釣ってきた船から買うというわけだ。

徹は杭州に行かないで済みそうだと思う反面、これでもいいのだからかと嬉しそうにインドマグロ、インドマグロと言っている晶を見ながらそう思っていた。

本当に世間は晶に甘い。徹はそうつぶやいてこの1件での褒美として晶に奢って貰った

アイスコーヒーをすすって窓の外を見た。

新緑が目映えて明るい日差しが差し込んでいた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2213c/>

---

インドマグロ

2010年10月11日16時13分発行